

京都大学教育研究振興財団助成事業
成果報告書

平成29年7月10日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団
会長 辻 井 昭 雄 様

所属部局・研究科 経済学研究科

職名・学年 特定助教

氏名 南 聡一郎

助成の種類	平成29年度 ・ 国際研究集会発表助成		
研究集会名	国際自動車学会第25回国際大会 25th International Colloquium of GERPISA “R/EVolutions. New technologies and services in the automotive industry”		
発表形式	<input type="checkbox"/> 招待 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 口頭 ・ <input type="checkbox"/> ポスター ・ <input type="checkbox"/> その他()		
発表題目	Ridesharing Service in Local Governments’ Transport Policy		
開催場所	パリ高等師範学校サクレー校 (フランス共和国イル・ド・フランス地域圏ヴァルドマルヌ県カシャン市)		
渡航期間	平成29年6月13日 ～ 平成29年6月19日		
成果の概要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有()		
会計報告	交付を受けた助成金額	300,000円	
	使用した助成金額	300,000円	
	返納すべき助成金額	0円	
	助成金の使途内訳	航空券(大阪-パリ)	140,000円
		現地交通費	12,000円
宿泊費(5泊)		100,000円	
大会参加費		48,000円	
当財団の助成について	(今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。) 本助成プログラムでは、助成金を国際会議への出発前に振り込んでいただけられるので、航空券など巨額の旅費精算をする上で大変助かりました。京都大学で研究するポスドク研究者は本当に恵まれており、本プログラムには感謝します。		

成果の概要／南 聡一郎

学会名：25th International Colloquium of GERPISA “R/EVolutions. New technologies and services in the automotive industry”

開催場所：ENS Cachan (École normale supérieure Paris-Saclay), Cachan City, France

1. 国際研究集会

6月14日～16日にパリ郊外にあるENS Cachan（パリ高等師範学校サクレー校，イル・ド・フランス地域圏ヴァル＝ド＝マルヌ県カシャン市，フランス）で開催された25th International Colloquium of GERPISAは，パリに本部をおくGERPISA（国際自動車学会）の年次大会である．同学会は，自動車産業に関する研究者を中心としたメンバーから構成されており，自動車産業に関する労働問題を研究する労働経済学や社会学の研究者，経営学における技術経営の研究者を中心に，自動運転など最新の技術に関する研究者や自動車会社の技術者などきわめて多様な報告者が世界中から集まった，きわめて多様で学際的な研究大会であった．様々な国から様々な分野の研究者が集まっており，モビリティ技術・研究の最先端を知ることができるという意味で，大変興味深い研究大会であった．

2. 研究報告の概要

6月15日の午後のセッションで，今回の助成対象である研究報告（タイトル：Ridesharing Service in Local Gouvernements’ Transport Policy）をおこなった．くわえて，セカンドオーサーとなっている研究報告（タイトル：The social experimentation and policy proposal for the ride sharing services in Japan, 発表者：Tetsuo Akiyama, Soichiro Minami, Hidetada Higashi, 6月14日午前）においても，ファーストオーサーである中央大学の秋山哲男教授が来られなくなったため，急遽サードオーサーである山梨学院大学の東秀忠准教授と合同でこの研究報告の発表もおこなった．両報告とも同じライドシェアをテーマとする研究報告であり，内容も関連が深いことから，本報告では共著分に関してもあわせて報告する．

ライドシェアサービスとは，マイカー相乗りにより自動車に乗れない人の足を確保する交通サービスのことである．スマホアプリなどIT技術の発展にともない不特定多数の利用者間でのライドシェアサービスの提供が可能となり，様々なサービスが提供されており，とくにグローバルに展開するUBERが有名である．未利用の自動車と住民の空き時間を労働時間として活用して交通サービスを提供できるライドシェアサービスは，過疎地域において自動車を運転できない人のモビリティ・チャンス喪失の問題解決の切り札として期待されている．だが，法制度の問題や既存のタクシースerviceとの軋轢などの課題があり，世界中で普及し始めているにもかかわらず，日本では普及が進んでいない．採択者ならびに共同研究者（秋山教授・東准教授）は，ライドシェアによって日本の過疎地域のモビリティ問題を解決させる方策に関する研究をおこなっている．

南の単独発表「Ridesharing Service in Local Gouvernements’ Transport Policy」は，UBERのようなライドシェアサービスを過疎地域における交通アクセス改善に役立てる施策について，地方政府ならびにその交通政策に着目し，ライドシェアサービスを包括的かつ体系的な地域交通政策の中に位置

づける方策を明らかにすることを目的としたものである。まず、フランス交通法典を根拠に交通権を定義した上で、地方政府の3つの役割、ライドシェアのサービス水準を定義する役割、許認可権者および監督者としての役割、社会的合意形成を担う役割を定義した。UBERなどの大手ライドシェア事業者は鉄道と同様自然独占の性格を持つ事業者であり、PPP（官民パートナーシップ）のような鉄道事業者に適用する自治体と事業者が契約する手法が有効であることを示した。結論として、地方政府は包括的な地域交通計画を作成しライドシェアサービスを定義づけ、PPPによってライドシェア事業者と契約を結ぶ施策を採用すべきであると結論づけた。

共著の報告は、ライドシェアを日本の過疎地域における交通課題解決に活かす方策に関するもので、秋山教授らとともに北海道中頓別町で町役場が主体となっておこなっているライドシェア実証実験に関するものである。本実験は、UBERの協力のもと町民のボランティアドライバーによって運行するものである。本発表では、利用者やドライバーに対するアンケート調査の結果をもとに、町民の満足度や今後の課題を明らかにした。

ライドシェアは急成長中の新しいモビリティのサービスであり、交通学の分野においても近年大変関心が集まる、非常にホットな研究テーマである。反面、新しい領域ゆえに先行研究、とくに社会科学分野の先行研究が限られている状況にある。GERPISAにおいて、単独発表・共著発表ともに先駆的な研究として、多くの参加者から高い関心が寄せられた。地方自治体とUBERが協力して過疎地域の交通課題を解決させるという実証実験は非常に先進的な事例であり、多くの関心が寄せられた。また単独発表の方は、ライドシェアサービスを交通政策論の観点から論じた研究成果として非常に先駆的な業績として評価していただいた。今回の発表は、今後自分がライドシェア研究を進めるうえでの重要なステップとなるとともに、国際的なライドシェア研究の発展に貢献することができたといえる。

3. 謝辞

この度は国際学会での発表機会を与えてくださり、研究の進展に多大なご支援をいただきました、公益財団法人京都大学教育研究振興財団に深く感謝いたします。